

日本地域学会ニューズレター

令和3年 no.1

令和3年2月28日

目 次

I. 会長挨拶	… 2
II. 役員人事等	… 3
III. 第58回日本地域学会年次大会(令和3年10月9～10日)のご案内 論文報告の募集, シンポジウムについて	… 7
IV. 総会報告 東洋大学オンライン (Webex) で開催された日本地域学会総会についての報告	… 8
V. 理事会報告 令和2年度第5-8回	… 9
VI. 委員会報告	… 12
1. 優秀発表賞選考委員会(受賞者の紹介)	
2. 機関誌編集委員会(第67回についての報告)	
VII. 会費納入のお願い 令和3年度会費請求額, 会費早期納入の特典, Web 会員について	… 13
VIII. 国際地域学会関連会議のお知らせ	… 14
IX. 学会賞候補者推薦の募集	… 14
X. 会員の移動	… 16
『地域学研究』バックナンバー申込書	… 18
正会員入会申込書	… 19

注意：令和3年度会費請求書が同封されています。

(納入期限 令和3年3月末日)

I. 会長挨拶

日本地域学会会長
徳永澄憲

はじめに

昨年12月に開催されました2021・2022年期の新理事会におきまして、新理事の皆様のご推挙により、日本地域学会の会長を務めさせていただくことになりました。副会長の松本昭夫先生、浅見泰司先生、木南莉莉先生、及び常務理事・理事・監事・名誉理事の先生方のご協力を賜り、微力ながら、長い歴史のある日本地域学会のより一層の発展に尽力したいと思っております。

地域科学は、周知のように1950年代にW.アイサード教授(アメリカ・ペンシルベニア大学)によって創設され、経済学、地理学、社会学、人口学、農・環境学及び都市工学などの研究分野の会員により地域を対象とする空間科学として発展してまいりました。一方、地域学会(RSA, Regional Science Association)は、1954年にアイサード教授のリーダーシップの下、北米の研究者を中心として国際学会として誕生しましたが、グローバル化が進展するなか、1989年に国際地域学会(RSAI, Regional Science Association International)として改組され、その後、各々が生い立ちと歴史の異なる北米地域学会(NARSC, The North American Regional Science Council)、欧州地域学会(ERSA, The European Regional Science Association)及び環太平洋地域学会(PRSCO, The Pacific Regional Science Conference Organization)をスーパー・リージョン(super-region)としてその傘下に治め、文字通り国際学会としての地域科学の普及活動を展開し、2015年にはRSAIとして初めてラテンアメリカ地域学会(LARSA, The Latin America Regional Science Association)を4つ目のスーパーリージョンとして承認しました。日本地域学会は1962年に創

設され、創設と同時に当時のRSA、現在のRSAIの日本セクションとして承認され、PRSCO及びRSAIにおいて研究面・組織面で歴史的に、そして現在も中核的な役割を担っています。

日本地域学会はこれまで、多様な分野からなる研究者や実務家による学際的な研究を中心に発展を遂げてきました。最近は特に、ICT技術の飛躍的な発展や大規模データ処理技術の進歩に伴い、ミクロレベルの大規模な地域関連データを地域・都市政策や立地・交通計画などに活用する研究が盛んになり、その守備範囲を広げつつあります。今後この分野と伝統的な分野とのコラボを促進するような企画やセミナーを実施し、本学会としても総合的かつ学際的に取り組む必要があると思われまます。

さらに本学会は、歴代会長のご尽力により、組織的に世界の著名な会員との国際的な研究交流を実施してまいりました。ただ残念なことに、2020年度はコロナ禍で国内・国際大会もオンライン開催になりました。会員の皆様には、国内年次大会のみならず、PRSCOなどの国際大会や数年に一度の世界大会にもご参加いただき、最新の地域科学の研究動向の探索と共に、世界の会員と研究面で切磋琢磨し、今まで以上に世界に情報を発信し、New Regional Scienceを打ち立てて頂ければと思う次第です。そのために、本学会は2つの新たな研究用の武器を用意しております。1つは、氷鮑揚四郎先生(Editor-in-Chief)の強力なリーダーシップの下に2017年にSpringerから創刊され、SCOPUSジャーナルとして認定されている英文機関誌*Asia-Pacific Journal of Regional Science*(APJRS)です。『地域学研究』同様、論文投稿が自由にできます。もう1つは、同じくSpringerから刊行されている地域科学の英文専門書シリーズNew Frontiers in Regional Science: Asian Perspectiveです。研究成果を英文誌APJRSに投稿し、それを蓄積・改訂して専門書を刊行できるというアカデ

ミックスタイルが確立されていることは、日本地域学会の会員にとって研究上の大きな利点であるとともに、世界の地域科学を発展させることになると思われます。

現在、情報通信や交通手段の革命的な発達やメガ自由貿易協定の出現等により、ビジネスや経済のグローバル化が進展する一方で、地球環境・地域格差問題など、ゆきすぎたグローバル化がもたらした新たなグローバル問題が生まれています。他方、国内では少子高齢化社会やAIやIoTに代表される第4次産業革命を迎えると共に、海外から多数の訪日外国人や移民の受け入れなど、新たな地域問題が発生しています。グローバルとローカルな視点を持つ地域科学にとって、これらの新しい課題への挑戦は新しい飛躍につながります。地域科学を創設したアイサード教授の意気込みに立ち戻り、地域科学の新たな地平を切り拓くことが、日本地域学会のさらなる使命であると思われます。このような目まぐるしい変化の時代ではありますが、会長として微力ながら日本地域学会の発展に尽力する所存です。先輩諸氏および会員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げ、会長の挨拶とさせていただきます。

II. 役員人事等

令和3・4(2021・2022)年期日本地域学会事務局、各種委員会等の構成及び交代についてお知らせいたします。

1. 日本地域学会事務局

会長

徳永 澄憲(麗澤大学)

副会長

浅見 泰司(東京大学)

木南 莉莉(新潟大学)

松本 昭夫(中央大学)

総務担当常任理事(事務局長)

水野谷 剛(筑波大学)

財務担当常任理事

櫻井 一宏(立正大学)

庶務担当常任理事

鈴木 聡士(北海学園大学)

理事

朝日 ちさと(東京都立大学)

石橋 健一(愛知学院大学)

内田 晋(茨城大学)(事務局次長)

岡村 誠(学習院大学)

鐘ヶ江 秀彦(立命館大学)

國光 洋二(農業・食品産業技術総合研究機構)

斎藤 参郎(福岡大学)

佐々木 啓介(東洋大学)

渋澤 博幸(豊橋技術科学大学)

高野 伸栄(北海道大学)

高橋 秀悦(東北学院大学名誉教授)

多和田 眞(愛知学院大学)

中山 恵子(中京大学)

野崎 謙二(高崎経済大学)

氷鮑 揚四郎(筑波大学名誉教授)(企画担当)

福井 秀夫(政策研究大学院大学)

藤田 陽子(琉球大学)

正岡 利朗(高松大学)

三友 仁志(早稲田大学)

柳原 光芳(名古屋大学)

藪田 雅弘(中央大学)

吉田 登(和歌山大学)

監事

大内田 康徳(広島大学)

梶井 昌邦(福岡大学)

名誉理事

河野 博忠(筑波大学名誉教授)

酒井 泰弘(筑波大学名誉教授,滋賀大学名誉教授)

臼井 功(横浜国立大学名誉教授)

原 勲(北星学園大学名誉教授)
加賀谷 誠一(北海道大学名誉教授)
藤岡 明房(立正大学)
三橋 博己(日本大学)
阿部 宏史(岡山大学)
戸田 常一(安田女子大学)
細江 守紀(九州大学名誉教授, 熊本学園大学)

第 58 回 (2021 年) 年次大会準備委員会及び実行委員会

委員長: 大槻 知史(高知大学)
副委員長: 藤岡 正樹(高知大学)

学術委員会

委員長: 鐘ヶ江 秀彦(前出)
副委員長: 中山 恵子(前出)
副委員長: 藪田 雅弘(前出)

広報委員会

委員長: 水野谷 剛(前出)
副委員長: 石橋 健一(前出)
副委員長: 藤田 陽子(前出)

名誉会員推薦委員会

委員長: 臼井 功(前出)
副委員長: 内田 晋(前出)

機関誌編集委員会

委員長: 多和田 眞(前出)
副委員長: 浅見 泰司(前出)
副委員長: 木南 章(前出)
副委員長: 松本 昭夫(前出)

Managing Editor: 氷鮑 揚四郎(前出)

学会賞選考委員会

委員長: 酒井 泰弘(前出)
副委員長: 水野谷 剛(前出)

学会幹事(会則第 18 条第 6 項)

(1) 事務局幹事

総務・財務・庶務担当常任理事付
小川 健(専修大学)

内藤 徹(同志社大学)
野崎 乃倫子(科学技術振興機構)

(2) 委員会幹事

学術委員会

小川 健(専修大学)
名誉会員推薦委員会

森岡 理紀(農研機構)

機関誌編集委員会・Editorial manager 編集委員会

篠崎 剛(東北学院大学)

古澤 慎一(新潟大学)

黛 陽子(前出)

森岡 理紀(前出)

学会賞選考委員会

黛 陽子(前出)

森岡 理紀(前出)

広報委員会

池川 真里亜 (麗澤大学)

小川 健(前出)

内藤 徹(前出)

野崎 乃倫子(前出)

黛 陽子(前出)

森岡 理紀(前出)

事務局 事務秘書

内村 初美

事務局所在地

筑波大学 生命環境系 水野谷研究室内
〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1
tel/fax +81-29-853-7221
sec@jsrsai.jp

2. 第 58 回 (2021 年) 年次大会準備委員会及び実行委員会

委員長: 大槻 知史(前出)

副委員長: 藤岡 正樹(前出)

委員 中澤 純治(高知大学)

委員 境 和彦(高知大学)

サイバー組織委員会 (Digital Twining Committee)

委員長: 城月 雅大(名古屋外国語大学)

副委員長: 豊田 祐輔(立命館大学)

委員 石橋 健一(愛知学院大学)

委員 大西 学(名古屋外国語大学)

委員 鐘ヶ江 秀彦(立命館大学)

委員 酒井 宏平(立命館大学)

委員 留野 僚也(立命館大学)

3. 学術委員会

委員長: 鐘ヶ江 秀彦(前出)

副委員長: 中山 恵子(前出)

副委員長: 藪田 雅弘(前出)

委員

佐々木 啓介(前出)

櫻井 一宏(前出)

洪澤 博幸(前出)

鈴木 聡士(前出)

多和田 眞(前出)

水野谷 剛(前出)

幹事:

小川 健(前出)

4. 広報委員会

委員長: 水野谷 剛(前出)

副委員長: 石橋 健一(前出)

副委員長: 藤田 陽子(前出)

委員

内田 晋(前出)

梶井 昌邦(前出)(西部)

櫻井 一宏(前出)

洪澤 博幸(前出)(東部)

三友 仁志(前出)

幹事

池川 真里亜(麗澤大学)

小川 健(前出)

内藤 徹(前出)

野崎 乃倫子(前出)

黛 陽子(前出)

森岡 理紀(前出)

5. 名誉会員推薦委員会

委員長: 臼井 功(前出)

副委員長: 内田 晋(前出)

委員

櫻井 一宏(前出)

洪澤 博幸(前出)

氷鉋 揚四郎(前出)

幹事:

森岡 理紀(前出)

6. 機関誌編集委員会

委員長: 多和田 眞(前出)

副委員長: 浅見 泰司(前出)

木南 章(前出)

松本 昭夫(前出)

Managing Editor: 氷鉋 揚四郎(前出)

委員

石橋 健一(前出)

大槻 知史(前出)(規程第3条第6号)

岡村 誠(前出)

梶井 昌邦(前出)

鐘ヶ江 秀彦(前出)

木南 莉莉(前出)

酒井 泰弘(前出)

櫻井 一宏(前出)(規程第3条第4号)

洪澤 博幸(前出)

鈴木 聡士(前出)(規程第3条第5号)

高橋 秀悦(前出)

徳永 澄徳(前出)

野崎 謙二(前出)

廣野 桂子(日本大学)

福井 秀夫(前出)

細江 守紀(前出)

水野谷 剛(前出)(規程第3条第3号)

三井 栄(岐阜大学)
三友 仁志(前出)
柳原 光芳(前出)
吉田 登(前出)

顧問:

Peter Batey (University of Liverpool)
Tüzin Baycan (Istanbul Tech. Univ.)
Kingsley Haynes (George Mason Univ.)
Geoffrey Hewings (University of Illinois)
Lars Lundqvist (Royal Inst. of Tech.)
Gordon Mulligan (Univ. of Arizona)
Peter Nijkamp (Tinbergen Institute and
Adam Mickiewicz Univ.)
David Plane (University of Arizona)
Jacques Poot (University of Waikato)

7. Editorial manager 編集委員会

編集委員長 多和田 眞(前出)

副委員長 浅見 泰司(前出)

木南 章(前出)

松本 昭夫(前出)

委員 石橋 健一(前出)

岡村 誠(前出)

梶井 昌邦(前出)

鐘ヶ江 秀彦(前出)

木南 莉莉(前出)

小林 慎太郎(国際農林水産業研究センター)

酒井 泰弘(前出)

渋澤 博幸(前出)

鈴木 聡士(前出)

高橋 秀悦(前出)

徳永 澄徳(前出)

内藤 徹(前出)

野崎 謙二(前出)

廣野 桂子(前出)

福井 秀夫(前出)

古澤 慎一(前出)

細江 守紀(前出)

水野谷 剛(前出)

三井 栄(岐阜大学)

光多 長温(都市化研究公室)

三友 仁志(前出)

柳原 光芳(前出)

吉田 登(前出)

機関誌編集委員会・Editorial manager 編集委員
会 幹事:

篠崎 剛(前出)

古澤 慎一(前出)

黛 陽子(前出)

森岡 理紀(前出)

8. 学会賞選考委員会

委員長: 酒井 泰弘(前出)

副委員長: 水野谷 剛(前出)

委員:

浅見 泰司(前出)

朝日ちさと(前出)

河野 博忠(筑波大学名誉教授)

櫻井 一宏(前出)

渋澤 博幸(前出)

多和田 眞(前出)

徳永 澄憲(前出)

氷鮑 揚四郎(前出)

藤岡 明房(前出)

細江 守紀(前出)

松本 昭夫(前出)

三友 仁志(前出)

藪田 雅弘(前出)

幹事:

黛 陽子(前出)

森岡 理紀(前出)

9. Asia-Pacific Journal of Regional Science

Editor in Chief: 氷鮑 揚四郎(前出)

Managing Editor:

内田 晋(前出)
櫻井 一宏(前出)
水野谷 剛(前出)

10. Council of RSAI and Council of PRSCO
(国際地域学会及び環太平洋地域学大会機構
評議会)

RSAI Council

Councilor: 木南 莉莉(前出)

PRSCO Council

Councilor & Executive Secretary
(未定)

Councilor :

鐘ヶ江 秀彦(前出)
木南 莉莉(前出)
鈴木 聡士(前出)
徳永 澄憲(前出)

11. 日本経済学会連合
評議員(日本地域学会選出)

鐘ヶ江 秀彦(前出)
渋澤 博幸(前出)

「日本経済学会連合 英文年報」への日本地
域学会分の担当係

編集委員: 佐々木 啓介(前出)
執筆担当: 渋澤 博幸(前出)

12. 地理学会連合

担当:

櫻井 一宏(前出)
藪田 雅弘(前出)

III. 第 58 回日本地域学会年次大会(令和
3 年 10 月 9~10 日)のご案内

令和 3 年度 (2021 年) 日本地域学会第 58 回

年次大会は、高知大学において下記の通り開催
されます。会員諸賢におかれましては、論文報
告、特別セッションの編成等、奮ってご参加下さ
い。

記

開催日: 令和 3 年 10 月 9 日(土)~10 日(日)

開催校: 高知大学

会場: 高知市文化プラザかるぽーと

〒781-0832 高知県高知市九反田 2-1

大会準備委員会: 委員長 大槻 知史(高知大学)

セッション:

共通論題

- a) 地域経済・地域雇用
- b) 産業集積・情報
- c) 環境評価・環境政策
- d) 地域環境・地球環境
- e) 国際経済政策
- f) 交通・コミュニケーション
- g) 経済分析・モデル分析
- h) 意識分析・行動分析
- i) 地方分権・地方財政・道州制
- j) 持続可能都市・地域システム
- k) 都市再生・地域再生
- l) 沿岸域管理・海洋政策
- m) ツーリズム
- n) アジア経済

一般論題

立地、人口移動、地域経済等の地域学一般の
課題すべて

公開シンポジウム:

テーマ (仮題) 大規模災害に備える地域づくり
以上

論文報告・特別セッション編成の募集

論文報告と特別セッションの編成を希望され
る方は、下記の事項を明記し、日本地域学会事務
局へ e-mail で応募して下さい。応募締切は令和

3年4月26日(月)です。なお申込は3月下旬より学会のホームページから行うことができます。

【論文報告】応募の必要事項

1. 論文タイトル
2. 上記が和文の場合には、同英文訳
3. 著者名、所属（複数の場合には発表者を明記）
4. 同上英文表記
5. Abstract 和文(700字以内)および英文(200words以内)の双方を提出
6. 対応責任者氏名、連絡先住所、tel, fax, e-mail アドレス等
7. 希望討論者2名（会員に限る。必ずしも希望通りとならないことをあらかじめご承知おき下さい）

【特別セッション編成】応募の必要事項

1. セッションタイトルおよびセッションの意図、内容等の概要（和文300字以内、英文100words以内）
2. 座長（1-2名の会員）氏名、所属、同英文表記
3. 1セッション当たり3-4編の報告を目途に各論文についての上記論文報告希望に準ずるデータ。但し、討論者は各々の論文について1名でも可。
4. 応募責任者氏名、連絡先住所、tel, fax, e-mail アドレス等

論文報告等に関する問い合わせおよび応募は次の日本地域学会事務局宛にお願いします。

筑波大学生命環境系

水野谷研究室内

日本地域学会事務局

〒305-8572 つくば市天王台1-1-1

tel, fax: 029-853-7221

メールによる応募: app@jsrsai.jp

メールによるお問合せ: sec@jsrsai.jp

応募申込書の入手: <http://jsrsai.jp/ja/>

年次大会の参加申込み

大会および懇親会の参加申込み方法は、次号のニューズレターおよび学会HPにて公表する予定です。

学会HP: <http://jsrsai.jp/ja/>

IV. 総会報告

令和2年度総会が、去る令和2年12月12日13時30分より、第57回（2020年）年次大会の会場である東洋大学でオンラインにより開催されました。当日の次第、審議及び報告の内容は以下の通りです。

1. 議題

1) 新入会員・退会希望者の承認

水野谷総務担当常任理事より前回の総会以降の新入会員、退会会員について報告があり、これを承認。これをもって会員数は個人会員1,014名、法人6団体となった。

2) 平成31・令和元年度の事業報告の承認

水野谷総務担当常任理事より報告がありこれを承認。

3) 平成31・令和元年度の収支決算の承認

櫻井財務担当常任理事より報告があった後、監事に代わり水野谷総務担当常任理事より監査が完了している旨報告があり、これを承認。

4) 令和3年度の事業計画の承認

水野谷総務担当常任理事より2021(令和3)年度事業計画の報告があり、これを承認。

5) 令和2年度の収支予算(修正案)の承認

櫻井財務担当常任理事より報告があり、これを承認。

6) 令和3年度の収支予算の承認

櫻井財務担当常任理事より報告があり、これを承認。

7) 2021・2022年期理事候補者の承認

水野谷総務担当常任理事より理事・名誉理事候補者案の提示があり、これを承認。

- 8) 第 58 回 (2021 年) 年次大会の開催地開催校等の承認。

水野谷総務担当常任理事より高知大学の運営で行うことが報告され、高知大学の大槻会員より大会案概要の報告があり、承認された。

- 9) 第 59 回 (2022 年) 年次大会の開催地、開催校等の取扱いの承認

水野谷総務担当常任理事より東日本の大学と開催の交渉を行うことが報告され、今後の取り扱いについては事務局に一任することが承認された。

2. 報告

- 1) 『地域学研究』第 50 巻の編集

多和田機関紙編集委員長より編集状況の報告があった。

- 2) Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS) について

氷鉦企画担当より編集経過が報告された。

- 3) RSAI の動向

木南(莉)理事より RSAI 理事会審議内容、次回大会予定の報告があった。

- 4) PRSCO の動向

渋澤庶務担当常任理事より 17th PRSCO Summer Institute 以降の大会等の 1 年延期、次期 RSAI Council 理事及び PRSCO 事務局長の報告があった。鐘ヶ江理事より 2022 年京都大会概要の報告があった。

3. 学会賞授与式

- 1) 選考経過報告

酒井委員長より学会選考委員会における選考経過について説明があった。

- 2) 第 29 回学会賞者報告

実際の授与は第 58 回 (2021 年) 年次大会にて行う旨説明があり、授与者の報告のみがあった。

功績賞：なし

論文賞：奥田隆明, Karima Kourtit

奨励賞：なし

著作賞：なし

学位論文賞 (博士)：馬場弘樹, 松本佑香,
胡唯真

(熊田禎宣賞・修士)：なし

H30 最優秀発表賞 (第 12 回)：米光結衣

V. 理事会報告

令和 2 年度日本地域学会第 5 回理事会

日時：令和 2 年 12 月 7 日 (月) 12:15-13:15

場所：東洋大学 (オンライン)

出席者：朝日, 浅見, 石橋, 内田, 木南(莉), 鐘ヶ江, 國光, 櫻井, 佐々木, 渋澤, 鈴木, 高橋, 高野, 多和田, 徳永, 戸田, 野崎, 氷鉦, 福井, 松本, 水野谷, 柳原, 吉田の各理事 (ただし, 阿部, 岡村, 斎藤, 中山, 細江, 三友の各理事より委任状付託; 以上理事 23 名出席); オブザーバとして, 臼井名誉会員推薦委員長, 大槻第 58 回年次大会実行委員長, 小川, 内藤, 野崎, 黛の各幹事
議題

1. 新入会員・退会希望者の承認

高橋会長より, 挨拶があった。

水野谷総務担当常任理事より, 個人会員 (1 名) の入会希望と個人会員 (3 名) の退会希望があった旨報告があり, これを審議した結果, 総会に諮る事が諒承された。この結果, 正会員 1,014 名, 法人会員 6 団体となった。

2. (平成 31 年) 令和元年度 監査報告

水野谷総務担当常任理事より代理で報告があり, 滞り無く終了した旨説明があり, これを諒承。

3. 令和 2 年度第 57 回年次大会の運営

年次大会運営の東洋大学の佐々木理事より挨拶

拶と Webex の操作方法の説明があった。

水野谷総務担当常任理事より、総会の説明担当者の説明があった。

4. 2021-2022 年理事候補者名簿

水野谷総務担当常任理事より、2021-2022 年理事候補者名簿の発表があり、氷鮑企画担当理事より説明があった。

5. 年次大会次期開催地・開催校について

水野谷総務担当常任理事より高知大学で行うことが報告され、これを諒承。この後、高知大学を代表し、大槻知史会員より挨拶と開催地と会場の詳細な説明があった。

6. 年次大会次々期開催地・開催校について

水野谷総務担当常任理事より、慣例により東日本において開催したい旨の説明があり、これを諒承。

7. その他

水野谷総務担当常任理事より、総会の議題について説明があり、これを諒承。

報告事項

1. 『地域学研究』第 50 巻の編集

多和田理事より掲載論文について報告があった。

2. 博士論文賞の審査結果について

水野谷総務担当常任理事より、3 名の受賞者が決まった旨の報告があった。

3. Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS)について

氷鮑企画担当理事より、APJRS の投稿状況に関して報告があった。Scopus ジャーナルとなる旨の報告があった。

4. New Frontiers in Regional Science: Asian Perspectives (NFRSAP)について

氷鮑企画担当理事より説明があった。

5. RSAI の動向

木南（莉）理事及び氷鮑企画担当理事より、RSAI の動向について報告があり、氷鮑企画担当

理事より、補足があった。

6. PRSCO の動向

渋澤庶務担当常任理事より、2021 年 8 月 11～13 日にベトナムホーチミン、2022 年京都、2023 年フィリピン、2024 年韓国、2025 年ミャンマー大会が開催される予定であることが併せて報告された。ベトナムホーチミンはオンライン開催となる予定。

RSAI 担当及び PRSCO 担当理事についての説明があった。

鐘ヶ江理事より 2022 年京都の開催に関してハイブリッド開催の計画がある旨と、8 月 2 日から 5 日の予定との説明があった。

令和 2 年度日本地域学会第 6 回理事会（オンライン）
日 時：令和 2 年 12 月 23 日（水） 17:15-18:00
場 所： オンライン（zoom）

出席者：朝日、浅見、石橋、内田、岡村、鐘ヶ江、木南（莉）、國光、斎藤、佐々木、渋澤、鈴木、高橋、多和田、徳永、中山、野崎、氷鮑、福井、正岡、水野谷、三友、吉田の各理事（ただし、高野、戸田、柳原の各理事、河野顧問より委任状付託；以上理事 23 名出席）；オブザーバとして、臼井名誉会員推薦委員長、酒井学会賞選考委員長、梶井監事、藪田監事、大槻第 58 回年次大会実行委員長、Springer 平地氏、小川、内藤、野崎、黛の各幹事

議題

高橋会長より、挨拶があった。

1. 新入会員・退会希望者の承認

水野谷総務担当常任理事より、入会、退会希望共に無しである旨の報告があり、これを諒承。この結果、正会員 1,014 名、法人会員 6 団体となった。

2. 令和 2 年度 第 57 回年次大会 会計報告

年次大会運営の東洋大学の佐々木理事より説明があり、参加料は無しで手作りのオンライン大会、ボランティアなゼロコストで、使用額はゼ

ロである旨の報告があり、これを諒承。

3. 第58回年次大会日程の変更について

水野谷総務担当常任理事より、2021年はオリンピック・パラリンピック開催の関係で10月11日が体育の日ではなくなることから、第58回年次大会開催日を10月9・10日に変更としたい旨の申し出が実行委員会からあった旨報告があり、開催日変更について諒承。

4. 『地域学研究』セット販売の推進

水野谷総務担当常任理事より、『地域学研究』セット販売の推進についての説明があり、これを諒承。

5. 新入会員勧誘キャンペーンの推進

水野谷総務担当常任理事より、担当者の確認と更なる会員の拡充推進について説明と依頼があり、これを諒承。

6. その他

・学会所在地の確定に関する会則改正の件

水野谷総務担当常任理事より、ゆうちょ銀行口座の名義変更等の事情により学会所在地を確定する必要性についての説明と、所在地を会長の住所とする旨の提案があり、これを諒承。

・独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 機関別認証評価委員会専門委員候補者の推薦について

水野谷総務担当常任理事より、委員候補者の推薦についての説明と推薦が無い場合は事務局より依頼したい旨の説明があり、これを諒承。

報告事項

1. New Frontiers in Regional Science: Asian Perspectives について

氷鮑企画担当理事より、APJRSの投稿状況と、次年度以降の編集体制拡充の検討に関して報告があり、これを諒承。

Springer 平地氏より、論文の出版状況について報告があった。

2. RSAI の動向

木南（莉）理事及び氷鮑企画担当理事より、RSAI の動向について前回の理事会より特に追加することはないとの報告があった。来年度RSAI のマラケシュについてのエントリーが始まっており、オンラインなので参加しやすいので、参加もしくはセッション編成を勧めてほしい旨の説明があった。

3. PRSCO の動向

特に無し

4. その他

日本経済学会国際会議派遣補助の件

水野谷総務担当常任理事より、日本経済学会国際会議派遣補助についての説明があった。

日本地域学会 令和 3・4(2021・2022)年期 新理事会 (オンライン)

日時: 令和 2 年 12 月 23 日 (水) 18:00-18:30

場所: オンライン (zoom)

出席者: 朝日, 浅見, 石橋, 内田, 岡村, 鐘ヶ江, 木南(莉), 國光, 斎藤, 佐々木, 渋澤, 鈴木, 高橋, 多和田, 徳永, 中山, 野崎, 氷鮑, 福井, 正岡, 水野谷, 三友, 吉田, 藪田の各理事 (ただし, 高野, 藤田, 柳原, 阿部, 藤岡の各理事, 阿部, 河野顧問, 藤岡より委任状付託; 以上理事 24 名出席); オブザーバとして, 臼井名誉会員推薦委員長, 酒井学会賞選考委員長, 梶井監事, 大槻第 58 回年次大会実行委員長, Springer 平地氏, 小川, 内藤, 野崎, 黛の各幹事

報告事項

1. 令和 3・4(2021・2022)年期 理事会の構成 (報告,確認)

水野谷総務担当常任理事 (事務局長) より、議長を高橋会長とする旨の提案があり、これを諒承した。引き続き水野谷総務担当常任理事より、理事構成について報告があり、1名が一身上の都合により新理事就任を辞退され、新理事会は29名で構成されることとなった旨の報告があっ

た。議長より新理事会が正式に成立することが確認された。

議事に先立ち、新任の新理事の紹介と挨拶があった。

議題

1. 令和 3・4(2021・2022)年期 役員人事

議長より役員選出方法について説明がなされ、これを確認した後、まず初めに新会長候補者の推薦を行うことが提案され了承された。

氷鮑企画担当理事から新会長に徳永理事の推薦があった。この他に推薦はなかったため、氷鮑理事より徳永理事の推薦理由の説明があり、審議の後、全会一致で徳永理事を新会長に選出した。

新会長の徳永理事よりご挨拶があった。次に、徳永新会長より、副会長は松本理事、木南(莉)理事、浅見理事の3名、総務担当常任理事(事務局長)には水野谷理事、会計担当常任理事には桜井理事、庶務担当常任理事には鈴木理事、また監事には梶井現監事、広島大学大内田会員の推薦があり、全会一致でこれを承認した。

2. その他

徳永新会長より閉会の挨拶があった。

令和2年度日本地域学会第7回理事会(持ち回り)

日時：令和3年1月29日(金)

議題

1. 退会希望者の承認

退会希望者1名の承認

2. 「東京大学区間情報科学研究センター」継続要望書の件

要望書提出の可否、文面について諮り、これを諒承。

令和2年度日本地域学会第8回理事会(持ち回り)

日時：令和3年2月12日(金)

議題

1. 令和2(2020)年度優秀発表賞の承認

VI. 委員会報告

1. 学会賞選考委員会

令和2年度第3回学会賞選考委員会(持ち回り)

日時：令和2年11月27日(金)

議題：学会賞学位論文賞(博士論文賞)候補者の選考

3名を学会賞学位論文賞(博士論文賞)に推薦し、これを諒承。

優秀発表賞選考委員会(委員長 酒井泰弘 滋賀大学名誉教授)では、第57回年次大会での発表を対象とした慎重な審議により、下記の会員の方々に令和2年度日本地域学会学会賞優秀発表賞を授与する事を決定しました。また優秀発表賞選考委員会での審議は継続しており、今後今回の優秀発表賞受賞者の中から1名の最優秀発表賞受賞者が決定される予定です。最優秀発表賞の授与式は、本年の年次大会(高知大学)で執り行われる予定です。

優秀発表賞：

Kumar BIPUL (University of Tsukuba)

主題：Sustainability Understanding of Buriganga River Restoration in Bangladesh by Inclusive Wealth and System Dynamics Modelling

Baffoe Jonathan DARKWAH (University of Tsukuba)

主題：Rice Farmers' Post-Harvest Losses: An Economic value of degraded Swampy Wetlands in the Northern and Ashanti Region of Ghana

山本 玲於奈 (和歌山大学)

主題：市町村別の建築ストックおよび人口減少を考慮した災害廃棄物発生原単位将来推計ー和歌山県を対象としてー

池田 健人 (新潟大学)

主題：農業法人における従業員の多様性に関する研究 ―戦略的資源管理（SHRM）からのアプローチ―

三木 泉佳（立命館大学）

主題：農泊事業によるソーシャル・キャピタルの形成の検証 ～滋賀県蒲生郡日野町における事例研究～

2. 機関誌編集委員会報告

日本地域学会 第 67 回機関誌編集委員会（持ち回り）

日時：令和 3 年 2 月 5 日（金）

議題

1. 第 57 回（2020 年）日本地域学会年次大会の報告論文の地域学研究への投稿の推薦について
第 57 回年次大会の発表論文に対する座長評価に基づき、掲載候補論文の対象の決定について諮った。

VII. 会費納入のお願い

日本地域学会会員各位

日本地域学会
会長 徳永 澄憲

謹啓 貴会員におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。さて、早速ですが、同封致しました請求書の通り、日本地域学会令和 3 年度会費をご請求申し上げますので、

納入期限 令和 3 年 3 月末日

までに同封の振込用紙にてお支払いいただけます様お願い申し上げます。

なお、預金口座引落しの手続きを令和 3 年 3 月 19 日までに完了された方には、令和 3 年 6 月 28 日に請求内容にしたがって引落しを行いますのでお早めに手続きをおとり下さる様お奨め致します。また、学生会員年会費の適用には学生証（写し）の提出が必要ですので、pdf か封書にて、

学会事務局までお送りください。

何かと出費のかさむ折から誠に恐縮ですが、事務処理の円滑化および再度にわたる督促の経費節減のため上記期限までの早期納入にご協力いただけますよう、かさねてお願い申し上げます。

敬具

1. 令和 3 年度日本地域学会会費等（適用期間限定）

令和 3 年度（令和 3 年 4 月 1 日－令和 4 年 3 月 31 日）

一般会員年会費 13,000 円

学生会員年会費 8,000 円

但し、これらの会費、購読料が適用されるのは、

- a) 納入期限（令和 3 年 3 月末日）までに上記会費を納入された日本地域学会会員の方、
- b) 令和 3 年 3 月 19 日までに預金口座引落しの手続きを完了された日本地域学会会員の方、または、
- c) 4 月以降に校費（公費）から支出する事を希望し、納入期限（令和 3 年 3 月末日）までにその旨、および支払予定日を事務局に申し出た日本地域学会会員の方、に限りますのでご注意ください。

2. 会費の期限内納入の特典

上記納入期限に遅れた場合には、会費関連の事務処理が煩雑となることを考慮して、日本地域学会では、

- 1) 一般会員年会費として 14,000 円を請求する
- 2) 学生会員年会費として 9,000 円を請求するという事を決定致しております。この主旨をご理解いただき、会費関連の事務処理の円滑化、経費節減にご協力頂けますよう、事務局からも重ねてお願い申し上げます。

3. Web 会員

本学会機関誌『地域学研究』の電子ジャーナルを、J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）により発行しております。これにより、会員の研究成果が広く世界に向けて情報発信されております。Web 会員に登録されますと、最新の論文が電子ジャーナル（本文 PDF）として閲覧可能となります。Web 会員登録を希望される方は、学会のホームページから、電子ジャーナル『地域学研究』個人購買者認証申込書(Web 個人会員)をダウンロードしていただき、ご記入の上、事務局までお申し込みください。

Web 会員価格（令和 3 年 4 月 1 日ー令和 4 年 3 月 31 日）は以下のようになります。

- 1) 学会正会員である個人（Web 個人会員 A）年会費 2,000 円
- 2) 学会非会員である個人(Web 個人会員 B)* 年会費 5,000 円
- 3) 本学会法人会員である団体もしくは機関 (Web 機関会員 A) 年会費 10,000 円
- 4) 本学非会法人会員である団体もしくは機関 (Web 機関会員 B)* 年会費 40,000 円

* Web 個人会員 B と Web 機関会員 B は、電子ジャーナル閲覧のみのサービスとなります。

4. RSAI（国際地域学会）への会員登録について

平成 23 年度から RSAI（国際地域学会）への会員登録の方法が変更になっております。従来より日本地域学会の会員は自動的に RSAI (国際地域学会) の会員として登録されておりましたが、会員の増加に伴う国際本部事務局の負担を軽減するため、会員情報を電子メールアドレスで管理する事になりました。したがって今後は、会費を納入する事に加え、電子メールアドレスを日本地域学会事務局に登録することが必要となります。今後も引き続き RSAI (国際地域学会) の会員となることを希望される会員で、電子メールアドレスを日本地域学会事務局に登録されていない方は、会費の納入に合わせて電子

メールアドレスを事務局にお知らせください。また RSAI への電子メールアドレスの通知に同意されない方は、日本地域学会事務局にその旨、お知らせください。

VIII. 国際地域学会関連会議のお知らせ

2021 RSAI World Congress がオンラインで開催されます。

会員諸賢におかれましては奮ってご参加ください。

2021 RSAI World Congress

開催日：2020 年 5 月 25 日(火)～28 日(金)

大会ホームページ：

<http://regionalscience.org/2021worldcongress/index.html>

IX. 学会賞候補者推薦の募集

日本地域学会では、地域科学 (Regional Science) の発展に貢献する優れた会員の業績をたたえる為、日本地域学会学会賞を毎年授与しています。今年度も日本地域学会学会賞（第 30 回）授賞選考候補者の推薦の募集を行いますので、どうか奮ってご応募下さい。学会賞は以下の各賞からなります。

功績賞：地域科学の進歩および学会の運営に顕著な貢献をなした会員を表彰する。

論文賞：すぐれた研究論文によって地域科学の発展に著しく寄与し、研究業績の意義や貢献が多岐である会員を表彰する。

奨励賞：若手研究者ですぐれた研究論文を発表した会員を表彰する。

著作賞：地域科学の発展に著しく寄与し、その

意義や貢献が多である著作物を表彰する。

学位論文賞：本学会会員である博士または修士課程修了者がその修了要件として提出したすぐれた学位論文を表彰する。

優秀発表賞：年次大会においてすぐれた論文発表を行った会員に優秀発表賞を授与する。このうち最も優秀な論文発表を行った会員に最優秀発表賞を授与する。

功績賞・論文賞・奨励賞・最優秀発表賞受賞者には賞状とメダルが、著作賞・学位論文賞・優秀発表賞受賞者には賞状が授与されます。

第30回日本地域学会学会賞 授賞選考候補者推薦応募要領

◇応募期限：

1) 功績賞・論文賞・奨励賞・著作賞・学位論文賞

令和3年4月2日（金）（事務局必着）

2) 優秀発表賞

令和3年4月26日（月）（年次大会発表申し込みと同時、事務局必着）

◇応募方法：功績賞への応募は他薦のみ、優秀発表賞への応募は自薦のみですが、その他への応募は自薦、他薦を問いません。専用の応募用紙を事務局に提出して下さい。

◇推薦資格：推薦者は、日本地域学会会員であることが必要です。

◇受賞資格等：

1) 論文賞および奨励賞の表彰対象となる研究業績は、過去2年間（暦年）に発表したもので、その主たるものが本学会関連誌『地域学研究（Studies in Regional Science）』、Papers in Regional Science of the RSAI 又は Asia-Pacific Journal of Regional Science に掲載されている論文であることが条件です。

2) 奨励賞の応募については、年齢がその表彰対象となるべき主たる研究業績の発表当時35才未満であった事が必要です。

3) 著作賞の表彰対象となる著作物については、過去2年以内に出版もしくは公表された研究図書であることが条件です。

4) 学位論文賞については、表彰の時点において修了後3年以内のもので、当該学位論文に関連した学術論文を本学会の学術セッションで発表しているか、または本学会機関誌『地域学研究』あるいはこれに準ずる専門誌に掲載または掲載可として受理されていることが条件となります。なお、年齢による制限はありません。

5) 優秀発表賞については、以下のいずれかである必要があります。①授賞対象となる論文発表の年度末において30歳以下である会員、②授賞対象となる論文発表時において大学院に在籍する会員、③年次大会の Early-bird Session（アーリー・バードセッション）で発表する会員であり、理事会がその表彰を適当と認めた会員。更にいずれの場合も、対象となる論文の第一著者であり、かつ年次大会当日に口頭発表を行う本人である必要があります。

◇選考方法：「日本地域学会学会賞（奨励賞・論文賞・功績賞）に関する規程」、「日本地域学会著作賞に関する規程」、「日本地域学会学会賞学位論文賞規程」、「日本地域学会学会賞優秀発表賞規程」に基づく選考委員会の審議による。決定次第、受賞者には連絡します。

◇授賞式：第58回年次大会における総会（令和3年10月 高知大学）にて執り行います。最優秀発表賞については、翌年の年次大会で執り行います。

◇応募用紙の請求：日本地域学会事務局まで賞の種別を明記してご請求下さい。優秀発表賞については、年次大会発表申込用紙中に応募欄があります。

X. 会員の移動

令和元年10月7日～令和2年12月12日

新入会員

正会員 28名

鮎川 瑞絵
淡島 正浩
池田 健人
伊藤 純一
枝元 美帆
奥山 尚子
尾上 みか
香田 浩一
島根 政充
長富 一暁
長縄 海広
永峯 弘規
西内 章泰
馬場 弘樹
松崎 大介
松本 賢
三木 泉佳
山田 崇雄
山本 玲於奈
百合岡 雅博
賈 奕真 (JIA YIZHEN)
葛 英傑 (GE Yingjie)
黎 銘欣 (LI Mingxin)
Bold, Aitantuya
Dorji, Pema
Kumar BIPUL
Nhiakao Kongyang
Suu Suu Phyo

退会会員

正会員 68名

飯田 隆雄
石川 隆司
市川 聖
杵本 寛司
上田 廣
氏原 岳人
大久保 彩子
岡部 有美子
川島 秀樹
木村 富美子
倉田 洋
黒川 洋行
神津 慶児
坂本 麻衣子
佐藤 孝治
佐藤 仁志
田中 俊彦
田渕 隆俊
寺内 定男
中村 光毅
丹羽 真
橋本 哲実
花岡 峻太
早坂 昭博
樋口 清秀
樋口 洋一郎
藤田 壮
三阪 朋彦
矢島 邦昭
柳川 博
山崎 義広
陸 鞆君
渡辺 理
温 欣洲
安 立昂
王 奇俊

田 野
朱 ゆう鉞
金 彬
申 鐵溟
劉 京
金 真朱
金 花
金 雪梅
王 勤耕
孫 爽
陳 楊
杜 歡政
張 国豊
馬 溪遥
沃 宏杰

Chettabudr, Waraporn

Dao, Minh Khue

Davaajargal Gan-ochir

Dinesharachchige Anura Kumara

Amaradewa

Dinh Thu Hang

Ernest OHENE NKANSAH

Hoang, Trung Thanh

Ikhlayel, Mahdi Khalil

Kamarudin Hasleeda Binti

KAMRUZZAMAN MOHAMMAD HAIDER

Phuc, Nguyen Tien

Rezaul MD Karim

SALEEM UMER

Shahjahan, Mohammad

Shaka Kaloma Francis

Tantiwiwat, Jeerayoos

UMMU ALYAA BINTI HASHIM

会員数

個人会員 1,014 名

法人会員 6 団体